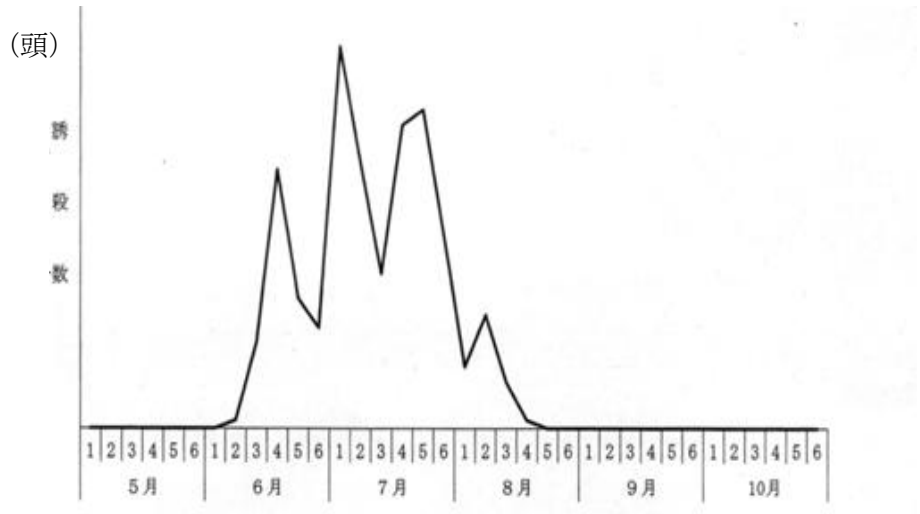
クビアカスカシバのフェロモントラップ誘殺消長　［令和８年(2026 年)調査］

病害虫防除部

2010 年から 2012 年までの消長模式図（果樹試験場内）

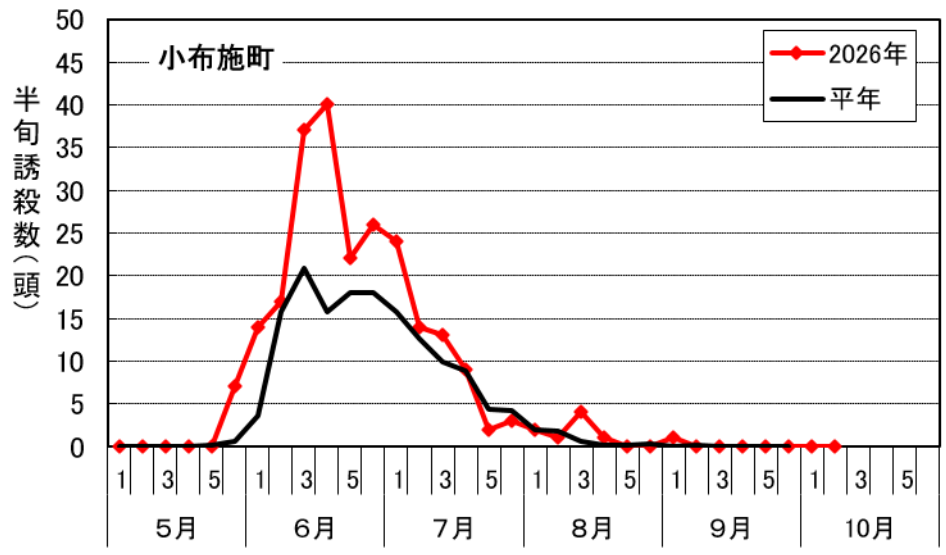


フェロモントラップによるクビアカスカシバ成虫の発生消長　（長野果樹試　平22～24の平均）

【発生生態と防除のポイント】

・年１回発生する。
・終齢幼虫が 10 月頃被害樹から土中に移動し、地表から数㎝のところで土繭をつくり越冬する。
・成虫は６月中旬頃から羽化し始め、８月中旬頃まで産卵する。
・体長は約３㎝、翅は透明で外観はスズメバチに似ている。
・食入部の早期発見や枝幹部への薬剤のかかりを良くするために、休眠期に粗皮削りを行う。
・落花 10 日後（果粒の小豆大期）までと７月下旬から８月上旬（袋掛け後）の２回、登録のある殺虫剤を枝幹部に十分かかるように散布する。
・幼虫の食害部を見つけたら捕殺する。

○小布施町（病害虫防除部）



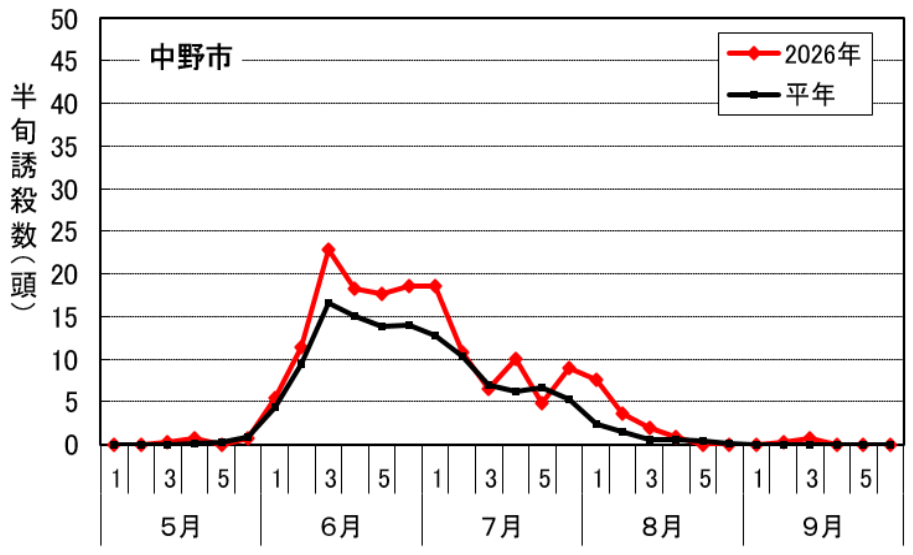
【調査地点】（標高約 340m）

・小布施町（ぶどうほ場）
・平年は 2016 年～2025 年の平均値

【コメント】

・平年同様、６月上旬の誘殺ピーク以降はおおむね減少を続けた。８月第３半旬に若干の誘殺戻りがみられたが、以降は９月頭にわずかにみられただけで、その後１か月以上誘殺されておらず、本年の発生は終了しているものと考えられる。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約 360m）

・中野市（ぶどうほ場）
・平年は 2016 年～2025 年の平均値

【コメント】

・平年より若干多かった６月第３半旬のピークのあとも、平年より多い状態がしばらく続いた。その後も誘殺数は平年より若干多い状態であるが、平年同様、右肩下がりで減少していってた。
・８月後半には誘殺がほとんどみられなくなり、その状態が本地点でも続いたため、本年の発生は終了しているものと考えられる。